

インドネシア共和国東ジャワ州シドアルジョ県 における熱泥流事故における被害者住民を 主体とした健康調査及び大気調査の実施

〒110-0005
東京都台東区上野5-3-4
クリエイティブOne秋葉原ビル6F
電話:03-5818-0507
E-mail:janni@jca.apc.org
http://www.jca.apc.org/~janni/index.html



ひろげる助成

2年目

知識の提供・普及啓発



今も続く熱泥の噴出で約2万5千人が避難

銀板データの回収枚数	120枚
総括ワークショップの参加者数	40人
今年度計画の達成度	90%
活動の全体目標に対する達成度	70%

課題

発生から12年を経過したシドアルジョ熱泥流事故は現在も有毒ガスを噴出し続け、5,000人超の避難民の多くが周辺地域で暮らしており、健康被害が懸念されている。

目標

被害者住民を主体とした簡易型大気モニタリングの手法を導入し、環境汚染と健康被害の実態をデータ化する。被害者住民の組織化を進めて行政や事業者と協議の場を設定する。

活動内容と成果

●銀板を用いた簡易型大気モニタリングを住民自身の手で行った。また、住民参加のワークショップで、測定結果の評価とそのマッピングを住民自身の手で行った。●集落を横断した被害者住民連絡会議を結成し、県政府担当部

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

- 集落ごとに利害関心が異なるため、被害者住民がまとまるのが難しかった。
- 銀板の色が光線の角によって異なった。

■ 工夫した点

- 集落や職業ごとにコアチームを構成し共同作業を通しまとまりを図った。行政担当者をワークショップに招き情報の共有を図った。



局と定期的会合を開始した。●熱泥が放出される流域で操業するエビ養殖・加工業者、漁業者への聞き取りを通じ、利害関係者間のネットワーク化を図った。●被害者に加え、周辺住民、県担当部局やエビ養殖・加工業者、環境NGOらを今年度の総括ワークショップに招き、環境汚染や健康被害の情報の共有を図った。



村民と共に銀板の測定結果をマッピングする

今後の展望

簡易型大気モニタリングに加え、バイオモニタリングや健康被害調査の成果をパンフレットやブックレットにまとめて発信する。利害関係者を一同に招いたステイクホルダー会議を開催し、問題解決のために協議する。